

2017年11月

たくさんの友人とサークル

滝田 和己

早いものでもう11月となり、からからと乾いた寒さが増しました。コートを着ても顔に当たる風が鋭く冷たく、朝晩はマスクや帽子を用いて寒さをしのいでいます。また常に乾燥しているので、日々の乾燥対策が必要です。保湿の意味でもマスクの着用は大変有効な手段で必須アイテムです。街中や学校でもたくさんの中国人がマスクを利用するところを見かけます。

さて、今月から私の所属するサークルの活動が本格的に始まりました。外国語を学ぶサークル「対外汉语交流社」に入っており、週に一度日本語を教えています。中国では日本の漫画や映画が大人気で、日本語学科でなくても日本に興味がある人が多く、生徒数も少なくありません。中国語を用いて授業するので自分自身の中国語上達の良い練習になりますし、サークルを通じて友人もたくさんできました。授業回数が少ないこともあり、日本語だけでなく日本の文化等も教えるようにしています。また、サークルのメンバーで劇の練習をして発表もしました。日本語サークルにもたくさん友人がおり、たまにそちらでも日本語を教えています。そこで驚いたことがサークルを運営する生徒のほとんどが日本語学科ではないことです。専門学科でなくても日本語が上手で、ほとんど自分で勉強したらしいです。彼らの様子を見て「好きこそ物の上手なれ」を改めて痛感しました。勉学は受け身でなく自分から進んでするものだという再確認ができ、私の勉学へのモチベーションも上げることができました。

週末はよく中国人の友人と一緒に勉強しています。彼らは皆日本語を勉強する生徒で、お互いに語学を教えあいながら協力して勉強しています。皆とても勉強熱心で、分からないところがあれば頻繁に質問してきます。音読の練習や単語の解説をよくして、私も教科書の内容等分からないことがあれば積極的に聞いています。よく一緒に食事もお互いとても仲が良く、充実した中国語の勉強を進めることができます。

「教わる」立場から「教える」立場になり、語学の学習はとても難しく深いことを感じました。何気なく使っていた単語をいざ教えるとなると、どう説明すればいいかわからないことも多かったと同時に、日本語と中国語で似通っている部分も多く発見することができました。そこから成語やことわざを考えると「語学って面白いな」ともしばしば感じました。語学の勉強は楽しみながら、かつ積極的に取り組んで行きたいです。



日本語サークルの様子



サークル初回。大勢の人が集まりました。



サークルの劇「大红灯笼高高挂」の様子